

## 我孫子市北新田の鳥相（1993）

時田賢一

キーワード：鳥相、北新田、我孫子市、千葉

### はじめに

我孫子市北新田一帯は、千葉・茨城両県境を流れる利根川沿いに広がる水田地帯である。戦前まではヨシやマコモなどの水生植物が生い茂る広大な低湿地帯で、かつてここにあった和田沼を中心に、マガヤやヒシクイ等が数多く飛来することで有名であった。また、ここは利根川の氾濫でもたらされる肥沃な土地でもあったため、早くから耕地化が試みられた。食料増産の必要性から、戦後になりまず国営千葉代行事業（1947～1957年：利根土地改良区1990）によって耕地化が為され、さらに県営利根地区は場整備事業（1969年～1989年：利根土地改良区1990）のもとでの耕地整理事業が完了した。本報は、都市化の進んだ周辺台地と利根川に囲まれた残存緑地ともいえる北新田地域の鳥相の一端を知るため、1990年6月～1991年12月に引き続き、1993年1月～12月に、水田・休耕地・畑・排水路・抽水植物群落（以下、ヨシ原）・斜面林（1993年より調査地追加）の環境に出現した鳥類について報告する。

### 調査地と方法

調査地は、利根川・利根運河合流点とその約10km下流の大利根橋との間に広がる洪水調節地（田中遊水池とも呼ばれる：幅平均1.5km、標高4.5～8.0m、全体面積1.104ha）の中にあり、その一部である北新田地区（342.6ha）に、調査地A（56ha：北緯35度53分、東経140度2分）および調査地B（約15ha：北緯35度52分、東経140度1分）を設けた（図1）。

#### 調査地Aの現況及び植物

堤防と排水路との間に広がるヨシ原15.6haと排水路沿いの水田・休耕地・畑地52.4haで構成されている。河川氾濫時の水位調節のための越流堤防があり、その最低部に長さ500m、幅10m程の調整池がある。越流堤内側には調整池と排水路（2号排水路）にはさまれた東西750m、幅100mの細長いヨシ原があり、北新田では比較的大きなヨシ抽水性群落を形成している。ヨシ原はヨシ *Phragmites australis*・マコモ *Zizania latifolia*・ヒメガマ *Typha angustifolia*・フトイ *Scirpus stabernaemontani*、サンカクイ *Scirpus triqueter* が、乾燥した部分には、ススキ *Miscanthus sinensis*・アズマネザサ *Pleioblastus chino*・キリンソウ *Sedum aizoon*・チガヤ *Imperata cylindrica*・セイタカアワダチソウ *Solidago altissima* などの草本、ノイバラ *Rosa multiflora*・ニワトコ *Sambucus racemosa* などの低木、ハリエンジュ *Robinia pseudocia*、ハンノキ *Alnus japonica*・タチヤナギ *Salix subfragilis*・アカメヤナギ *Salix chaenomeloides var. pilosa* などの高木が独立して疎らに生えている。水田には、オモダカ *Sagittaria trifolia*・ミズアオイ

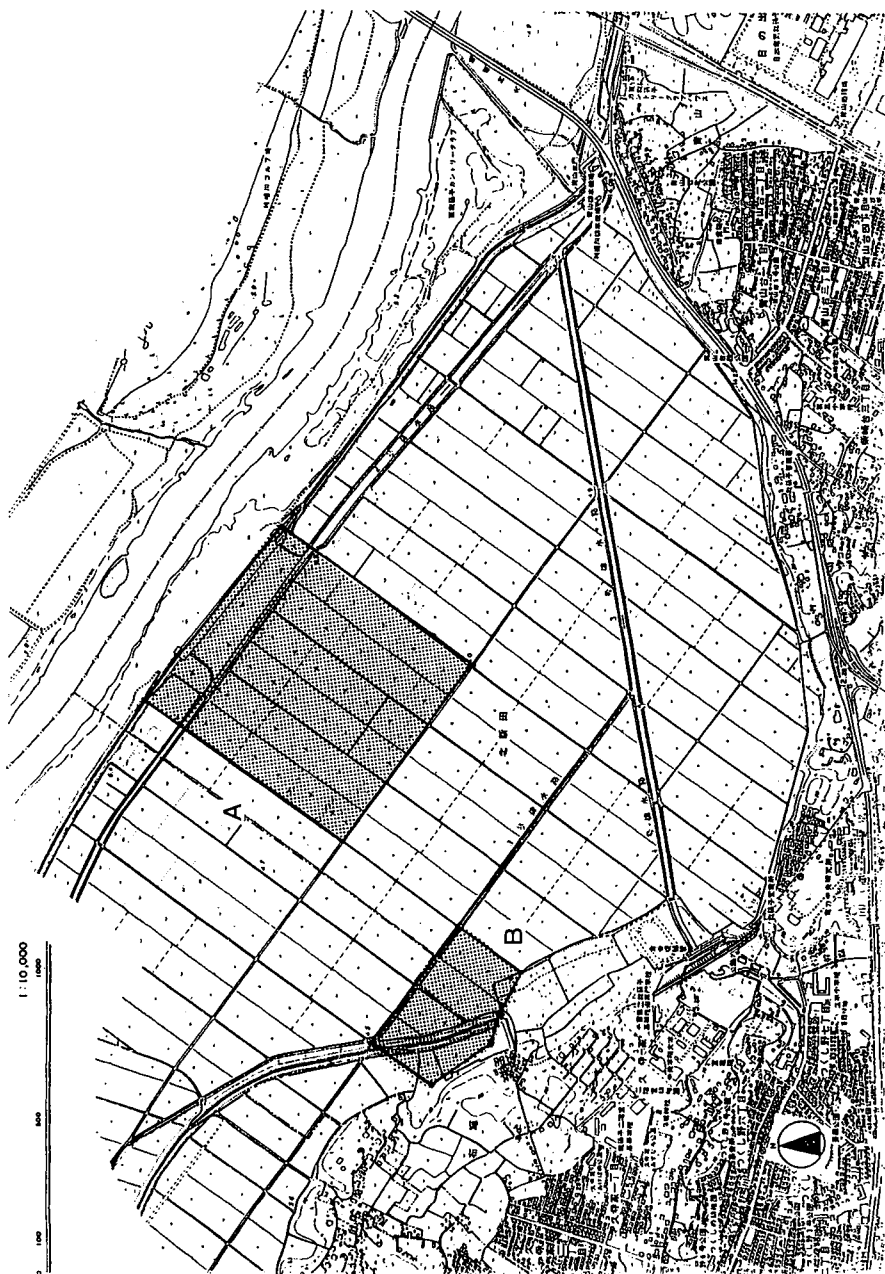


図1. 北新田内調査地A・B  
注：この地図は、国土地理院発行2万5千分の1の地形図（取手）を使用したものである。

*Monochoria korsakowii*、畦や休耕地にはオオバコ *Plantago asiatica*・スズメノトウガラシ *Lindernia antipoda*・ヨメナ *Kalimeris yomena*・ヒメシオン *Aster fastigiatus*・エノコログサ *Setaria viridis* などの耕地雑草が見られ、わずかであるが園芸樹木が植えられている箇所もある。水田は耕地整理により乾田化されているため、田植え時や夏期には沼地を思わせるような場所になるが、それに引き替え冬季には非常に乾燥した荒野が出現するのもここの特徴である。排水路の法面には雑草群落が見られるが、水縁はコンクリートで覆われているため植物は全く見られない。側溝化されず昔ながらの水路の面影が残る区間にはヨシやマコモが繁茂し、水路の中には手賀沼では既に見ることができなくなったオニビシ *Trapa japonica* var. *japonica*・ヒルムシロ *Potamogeton distinctus*・エビモ *Potamogeton crispus* などの水生植物が見られる。

#### 調査地Bの現況及び植生

旧堤防内の斜面林 2 ha と堤防・排水路（3号排水路）沿いの水田 6.5 ha・排水路水面・排水路内の州 0.4 ha から構成されている。利根川沿いの調査地Aとは異なり、丘陵地端の斜面林を中心とした調査地である。斜面林の他には排水路沿いにわずかに荒地雑草群落が見られる。斜面林は、アカマツ *Pinus densiflora*・スギ *Cryptomeria japonica* が優先しており、林内の数カ所には植林されたモウソウチク *Phyllostachys pubescens*・マダケ *Phyllostachys bambusoides* が見られる。また、所々にはエノキ *Celtis sinensis* var. *japonica*・ムクノキ *Aphanathe aspera*・エゴノキ *Styrax japonica*・イヌシデ *Carpinus tschonoskii*・シラカシ *Quercus myrsinaefolia* などが混在し、林床はアズマネザサ *Pleioblastus chino*・チヂミザサ *Oplismenus undulatifolius* var. *japonicus*・カササゲ *Carex dispalata* などの低木層で構成されている。林縁にはヌルデ *Rhus javanica* var. *rozburgii*・クズ *Pueraria lobata*・ハゼノキ *Rhus succedanea* などが繁茂している。

線センサス調査は、1993年1月～同年12月まで、月3回程度、調査時間は午前6時～8時の2時間程度、調査地内を双方50mの間隔で踏査し、出現した鳥類をすべて記録した。種の確認には双眼鏡（10倍）や地上望遠鏡（20倍～40倍）を用いた。また、標識調査を実施し、標識した鳥種を記録に加えた。標識調査は鳥相を調べる際、通常の観察等では確認の困難な種が識別できる点で非常に有効である。標識調査は1月、2月、4月、5月、10月、11月、12月に、月1～2回、計10回実施した。標識調査にはカスミ網（36メッシュ：12m×4及び61メッシュ：24m×10）を用いておこなった。

## 結 果

### 1 出現種

調査期間中に観察した出現種数は35科109種（ドバトを除く）であった（表1）。前回調査1990年6月～1991年12月では30科103種（ドバト・ベニスズメ・ヘキチョウを除く）を観察していたが（時田 1992）、本調査では15科23種が新たに記録した（表2）。内訳はヨシ原で3目7科13種（表3）、斜面林で4目10科12種である（表4）。1990年6月～1993年12月までの通算出現種は15目35科126種（表1）である。出現種は日本産鳥類目録改訂5版（日本鳥学会 1974）に従った。

月別出現種数は1月～7月には7月の37種を最少として減少傾向を示し、7月以降は増

加に転じて12月には最多の72種を記録した(図2)。調査期間中はほぼ年間を通して観察された種は、カイツブリ・ゴイサギ・ダイサギ・コサギ・カルガモ・オオタカ・ハヤブサ・チョウゲンボウ・キジ・バン・コチドリ・イソシギ・キジバト・カワセミ・ヒバリ・ハクセキレイ・セグロセキレイ・ヒヨドリ・モズ・セッカ・シジュウカラ・ホオジロ・カワラヒワ・スズメ・ムクドリ・オナガ・ハシボソガラス・ハシブトガラスの28種であった。繁殖期(5月～7月)に観察された種は、サンカノゴイ・ヨシゴイ・アマサギ・チュウサギ・ヒクイナ・バン・カッコウ・ツバメ・コヨシキリ・オオヨシキリなど26科63種で、越冬期(1月～2月、11月～12月)には、マガモ・コガモ・チュウヒ・タゲリ・コミミズク・タヒバリ・ツグミ・カンラダカ・オオジュリン・ベニマシコ・カケスなど32科75種を記録した。

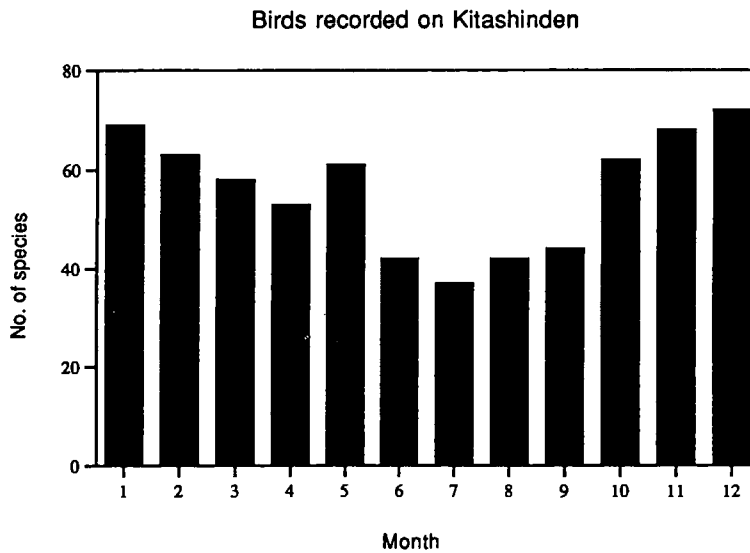


図2. 月別出現種数

## 2 出現種の環境利用

### 2-1 水田・休耕田の利用

水田に水が張られる4月頃からシギやチドリ類が観察されるようになり、5月にもなるとアマサギやチュウサギなどサギ類も加わり多くの種類が観察されるようになる。

繁殖期はアマサギ・ダイサギ・チュウサギ・コサギなどのサギ類が数多く観察され、越冬期では、ツグミ・ヒバリ・タヒバリ・カワラヒワなど数多く観察された。このような種の入替わりは、越冬期のダイサギ・コサギなどが餌となるドジョウやアメリカザリガニなどを、冬眠や水田の乾燥化により当該環境で得難くなり、もっぱら排水路で採餌するようになり、かわって乾燥化した荒地にツグミ・カンラダカ・カワラヒワなどが数多く採餌に訪れるようになるためと考えられる。

## 2-2 排水路の利用

排水路では、まず留鳥としてカイツブリ・バン・カワセミなどが通年観察された。また繁殖期にはツバメなどの夏鳥、越冬期にはコガモ・マガモといったカモ類をはじめとする冬鳥が見られた。特に繁殖期には主として水田で見られたダイサギ・コサギが、越冬期はもっぱら排水路で観察された。排水路は、台風や豪雨による集中豪雨をのぞくと水位が余り変化しないため、繁殖期にはカイツブリやバンの安定した営巣地としてよく利用されており、また越冬期にはカモ類・サギ類の貴重な餌場としても機能している。

## 2-3 ヨシ原の利用

ヨシ原では、繁殖期と越冬期の優占種が大きく入れ替わるのが特徴である。繁殖期にはヨシゴイ・コヨシキリ・オオヨシキリが多く観察され、オオヨシキリが優占し採餌地や営巣地として利用している。越冬期ではクイナ・ウグイス・アオジ・オオジュリン・スズメ・ムクドリなどが多く観察され、オオジュリンが優占し採餌地や餌として利用している。ヨシ原は繁殖期及び越冬期も利用価値の高い環境であることがわかる。

## 2-4 斜面林の利用

斜面林で観察される鳥種は、まず夏期においては当地の留鳥のみが観察され、越冬期には、これに冬鳥が加わる。同様な結果は手賀沼で調査を行っている斉藤他(1992)でも報告されている。越冬期に冬鳥として斜面林で観察されたビンズイ・ミソサザイ・トラツグミなど4目10科12種で、これらは水田・休耕田・排水路・ヨシ原といった他の環境では観察されなかった。

## 3 特記すべき記録

サンカノゴイは、1990年と1991年の調査では、利根川上流域への渡りの途中に立ち寄ったものと思われる個体を観察していたが、いずれも6月下旬の観察であった。今回の調査では3月より調査地内に於いて複数個体の鳴き声が認められた。4月、5月、6月には3～4個体を常時観察することができた。観察されたヨシ原を踏査したところ、ヨシと水面の水際に雑然とヨシを積み重ねて押しつぶしたような産座(Hancock et al, 1984)らしきものを観察できた。繁殖したかは確認していない。4月にアカアシギ1個体を5月にはシマアジ1個体の飛来をそれぞれ観察している。12月の標識調査ではツリスガラ4個体とオガワコマドリ♀1を標識することができた。ツリスガラは1992年の秋に手賀沼で撮影されている(木村 私信)。また、オガワコマドリは1982年1月3日に同調査地内の越流堤防で斃死鳥として♂1個体が得られている。標本は鳥の博物館が所蔵している。

以上、出現種の記録から、都市近郊の河川流域の環境が、多くの鳥たちにとって採餌・営巣・越冬・渡りの中継地として、利用価値の高い地域であることがわかる。しかし、このような河川流域のヨシ原等は、開発のしやすい環境であるため、開発に伴う環境変化が鳥類やその他生物に及ぼす影響が心配される。

## 謝 辞

調査をおこなうにあたり我孫子市在住の木村雪夫氏には貴重な情報を、また、我孫子市

在住の内田聖氏、東京都葛飾区在住の内田優氏ご兄弟には北新田の鳥類について貴重な助言と協力をいただいた。また資料の入手とその使用の便宜を図ってくださった利根土地改良区に感謝申し上げたい。

#### 参考文献

- 環境庁自然保護局. 1987. 植物目録. 大蔵省印刷局, 東京.
- 斉藤安行・百瀬邦和・平岡考・鶴見みや古・大山紀子・1992. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告1—ヨシ原、水田・畑地、斜面林(1988-1991). 我孫子市鳥の博物館調査研究報告1:43-59
- 時田賢一. 1992. 我孫子市北新田の鳥相. 我孫子市鳥の博物館報告1:23-35
- 利根土地改良区. 1990. 県営ほ場整備事業利根土地概要書. 千葉県柏利根土地改良事務所, 千葉県
- 日本鳥学会. 1974. 日本産鳥類目録. 改訂第5版. 学習研究社, 東京.
- Hancock, James. 1984. The herons handbook. Helm, London

#### Avifauna in Kita-shinden 1993

Ken-ichi Tokita

**KEY WORDS** : Avifauna, kita-shinden, Abiko, Chiba

Abiko City Museum of Kohonoyama 234-3, Abiko, Chiba, 270-11, Japan

表1. 北新田出現種リスト

Birds recorded on Kitashinden.		15日33科126種											
Bird species		1993											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
鳥イワリ	<i>Podiceps ruficollis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鳥ワ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鳥ツノコイ	<i>Botaurus stellaris</i>	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鳥コイ	<i>Ixobrychus sinensis</i>	○				○	○	○	○	○	○	○	○
鳥イキキ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鳥イ	<i>Butorides striatus</i>	○											
鳥イ	<i>Bubulcus ibis</i>	○				○	○	○	○	○	○	○	○
鳥イ	<i>Egretta alba</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鳥イ	<i>E. intermedia</i>	○				○	○	○	○	○	○	○	○
鳥イ	<i>E. garzetta</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鳥イ	<i>Ardea cinerea</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鳥イ	<i>Anas platyrhynchos</i>	○	○	○	○						○	○	○
鳥イ	<i>A. poecilorhyncha</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鳥イ	<i>A. crecca</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鳥イ	<i>A. querquedula</i>	○				○							
鳥イ	<i>A. acuta</i>	○	○	○	○						○	○	○
鳥イ	<i>A. cypeata</i>	○	○	○	○	○					○	○	○
鳥イ	<i>Aythya marila</i>	○											
鳥イ	<i>Milvus migrans</i>	○	○	○					○	○	○	○	○
鳥イ	<i>Accipiter gentilis</i>	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
鳥イ	<i>A. gularis</i>	○											
鳥イ	<i>A. nisus</i>	○											
鳥イ	<i>Buteo buteo</i>	○										○	○
鳥イ	<i>Buteo indicus</i>	○				○	○				○		
鳥イ	<i>Circus aeruginosus</i>	○	○	○		○					○	○	○
鳥イ	<i>Falco peregrinus</i>	○	○	○	○	○		○	○		○	○	○
鳥イ	<i>F. subbuteo</i>	○									○	○	○
鳥イ	<i>F. columbarius</i>	○									○	○	○
鳥イ	<i>F. tinnunculus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鳥イ	<i>Coturnix coturnix</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鳥イ	<i>Bambusicola thoracica</i>	○			○	○	○	○		○	○	○	○
鳥イ	<i>Phasianus colchicus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鳥イ	<i>Rallus aquaticus</i>	○	○	○	○	○					○	○	○
鳥イ	<i>Porzana fusca</i>	○					○	○	○				
鳥イ	<i>Gallinula chloropus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鳥イ	<i>Gallinula cinerea</i>	○											
鳥イ	<i>Rostratula benghalensis</i>	○	○									○	○
鳥イ	<i>Chaerdrilus dubius</i>	○	○	○	○	○	○	○	○				
鳥イ	<i>C. alexandrinus</i>	○	○	○	○	○						○	○
鳥イ	<i>C. mongolus</i>	○											
鳥イ	<i>Pluvialis dominica</i>	○			○	○			○	○			
鳥イ	<i>P. squatarola</i>	○											
鳥イ	<i>Microsarcops cinereus</i>	○	○									○	○
鳥イ	<i>Vanelus vanelus</i>	○	○	○	○							○	○
鳥イ	<i>Arenaria interpres</i>	○				○	○				○	○	
鳥イ	<i>Calidris ruficollis</i>	○					○				○	○	
鳥イ	<i>Philomachus pugnax</i>	○					○						
鳥イ	<i>Tringa erythropus</i>	○					○				○	○	
鳥イ	<i>T. totanus</i>	○				○							
鳥イ	<i>T. nebularia</i>	○					○						
鳥イ	<i>T. ochropus</i>	○											
鳥イ	<i>T. glareola</i>	○					○						
鳥イ	<i>T. brevipes</i>	○					○						
鳥イ	<i>T. hypoleucos</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鳥イ	<i>Xenus cinereus</i>	○						○					
鳥イ	<i>Limosa limosa</i>	○											
鳥イ	<i>Numenius arquata</i>	○					○						
鳥イ	<i>N. phaeopus</i>	○				○	○						
鳥イ	<i>Gallinago gallinago</i>	○	○	○	○	○	○				○	○	○
鳥イ	<i>G. hardwickii</i>	○				○	○				○	○	○
鳥イ	<i>Himantopus himantopus</i>	○					○						
鳥イ	<i>Larus ridibundus</i>	○	○	○	○							○	○
鳥イ	<i>L. canus</i>	○										○	○
鳥イ	<i>L. crassirostris</i>	○											
鳥イ	<i>Sterna hirundo</i>	○											
鳥イ	<i>S. albifrons</i>	○						○	○	○			
鳥イ	<i>Streptopelia orientalis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鳥イ	<i>S. orientalis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鳥イ	<i>Cuculus canorus</i>	○					○	○	○	○			
鳥イ	<i>C. saturatus</i>	○									○	○	
鳥イ	<i>C. poliocephalus</i>	○				○	○						

Birds recorded on Kitashinden.		15日35科126種											
Bird species		1991-1992				1993							
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
トウワズ	<i>Asio otus</i>	○	○	○									
コムシ	<i>A. flammeus</i>	○	○	○	○							○	○
トウワズ	<i>Ninox scutulata</i>	○											
トウワズ	<i>Apus pacificus</i>	○									○		
トウワズ	<i>Alcedo atthis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
トウワズ	<i>Lynx torquilla</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
トウワズ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
トウワズ	<i>Alauda arvensis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
トウワズ	<i>Riparia riparia</i>	○											
トウワズ	<i>Hirundo rustica</i>	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○
トウワズ	<i>Delichon urbica</i>	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○
トウワズ	<i>Motacilla cinerea</i>	○										○	
トウワズ	<i>M. alba</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
トウワズ	<i>M. grandis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
トウワズ	<i>Anthus spinoletta</i>	○	○	○	○							○	○
トウワズ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
トウワズ	<i>Lanius bucephalus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
トウワズ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	○	○									○	○
トウワズ	<i>Birhacus svecicus</i>	○											○
トウワズ	<i>Tarsiger cyanurus</i>	○	○	○	○							○	○
トウワズ	<i>Phoenicurus aureus</i>	○	○	○	○							○	○
トウワズ	<i>Saxicola torquata</i>	○										○	○
トウワズ	<i>Turdus dauma</i>	○	○	○								○	○
トウワズ	<i>T. chrysolaus</i>	○	○	○	○							○	○
トウワズ	<i>T. pallidus</i>	○	○	○	○							○	○
トウワズ	<i>T. naumanni</i>	○	○	○	○	○	○					○	○
トウワズ	<i>Cettia diphone</i>	○	○	○	○	○	○					○	○
トウワズ	<i>Megalurus pryori</i>	○											
トウワズ	<i>Acrocephalus bistrigiceps</i>	○											
トウワズ	<i>A. arundinaceus</i>	○											
トウワズ	<i>Cisticola juncidis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
トウワズ	<i>Muscicapa griseisticta</i>	○											
トウワズ	<i>Ficedula narcissina</i>	○											
トウワズ	<i>Aegithalos caedus</i>	○	○									○	○
トウワズ	<i>Remiz pendulinus</i>	○											○
トウワズ	<i>Parus varius</i>	○	○									○	○
トウワズ	<i>P. major</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
トウワズ	<i>Zosterops japonica</i>	○	○	○	○							○	○
トウワズ	<i>Emberiza cioides</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
トウワズ	<i>E. rustica</i>	○	○	○	○							○	○
トウワズ	<i>E. spodocephala</i>	○	○	○	○	○						○	○
トウワズ	<i>E. variabilis</i>	○	○		○							○	○
トウワズ	<i>E. schoeniclus</i>	○	○	○	○							○	○
トウワズ	<i>Fringilla montifringilla</i>	○											
トウワズ	<i>Carduelis sinica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
トウワズ	<i>C. spinus</i>	○	○	○									
トウワズ	<i>Uragus sibiricus</i>	○	○	○	○							○	○
トウワズ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	○	○	○	○							○	○
トウワズ	<i>Passer montanus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
トウワズ	<i>Sturnus philippensis</i>	○											
トウワズ	<i>S. cineraceus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
トウワズ	<i>Garrulus glandarius</i>	○	○									○	○
トウワズ	<i>Cyanopica cyana</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
トウワズ	<i>Corvus corone</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
トウワズ	<i>C. macrorhynchos</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

69 63 58 53 61 42 37 42 44 62 68 72



